

国際サンゴ礁イニシアティブについて

1. 経緯

「国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)」は、サンゴ礁、藻場、マングローブなどの保全を目的とした国際協力の枠組みであり、「日米コモンアジェンダ」を契機として、日米豪仏等(8ヶ国)により開始されたものであり、現在、40ヶ国・40機関が参加。

ICRIの事務局は参加国が持ち回りで担うことになっており、上記の経緯を踏まえ、平成17年7月から我が国とパラオ共和国が共同で事務局を実施(19年6月まで)。

2. ICRIの主な活動

ICRIは、1995年に採択された「行動の呼びかけ(Call to Action)」及び「行動の枠組み(Framework for Action)」に基づき、研究・モニタリング、持続可能な管理、能力養成、活動の評価・再検討等を推進。具体的には次のような活動を実施。

地球規模のサンゴ礁モニタリングネットワーク(GCRMN)の構築。

総会でのサンゴ礁保全の方向性の決定及びICRIフォーラム(インターネット上のフォーラム)を通じて情報交換。

ワークショップの開催やマニュアル作成による途上国の能力強化。

4. 事務局行動計画

平成17年10月31日～11月2日にパラオ共和国において、ICRIの総会が開催され、次のような活動が盛り込まれた日本事務局期間中の行動計画が承認された。

3回の総会の開催及びウェブサイトの管理運営。

東アジアおよびミクロネシアにおけるサンゴ礁の海洋保護区のデータベース作成。

過去10年間に渡るICRIの活動の検証、及び、ICRIの10年間の活動を紹介するための冊子の出版。

サンゴ礁保護のための普及啓発を目的とした「サンゴ礁保護の日」の制定に向けた取組の開始。